

嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)

平成27年8月
佐賀県嬉野市

目次

【1】基本的な考え方

- 1 人口減少社会に力強く立ち向かう . . . 3
- 2 まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立する総合戦略 . . . 3
- 3 嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け . . . 3
- 4 嬉野市における「まち・ひと・しごと創生」 . . . 3

【2】政策の企画・実行にあたっての基本方針

- 1 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則 . . . 4
- 2 嬉野市総合計画後期基本計画との関係 . . . 4
- 3 取組体制とPDCAの確立 . . . 4

【3】基本目標、重要業績評価指標（KPI）及び具体的な施策

- <基本目標①>
嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる . . . 5
- <基本目標②>
嬉野市への“ひと”の流れをつくる . . . 11
- <基本目標③>
嬉野市で結婚・出産・子育ての“希望”をかなえる . . . 17
- <基本目標④>
安全・安心な暮らしを守り、市民と協働の“まち”をつくる . . . 22

【1】基本的な考え方

1 人口減少社会に力強く立ち向かう

本市における2000年以降の人口状況をみると2001年を除き、死亡数が出生数を上回る「自然減」、転出数が転入数を上回る「社会減」の両方の状態が続いており、現状のままでは2060年には総人口が15,000人程度にほぼ半減するという推計も出されている。その他にも、男女とも20歳代前半での転出が多くみられ、特に女性の40歳代までの本市へ転入する割合が鈍化している傾向が強い。出生数に大きく影響する20～39歳女性が総人口に占める割合では、2010年には総人口の10.0%と全国（12.4%）や佐賀県（11.3%）に比べてもすでに低い割合であり、2040年には7.0%という人口減少傾向にさらに拍車をかける深刻な推計も出されている。

このような現状を踏まえ本市では、人口減少幅をできるだけ小さくしつつ、ある程度の人口減少は避けられないことを前提に、人口減少社会に力強く立ち向かい、自分のまちに愛着と誇りを持てるようなまちづくりを進めるとともに、地域内外との交流を促進して、交流人口の増加に向けて持続的に取り組んでいくこととする。

2 まち・ひと・しごととの創生と好循環を確立する総合戦略

人口減少の構造的な課題を解決するためには、“しごと”が“ひと”を呼び、“ひと”が“しごと”を呼び込む好循環を確立することで、本市への新たな人の流れを生み出すことが必要である。そして、その好循環を支える“まち”に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる環境をつくり出すことが急務であるといえる。

3 嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に基づき、同時にとりまとめた「嬉野市人口ビジョン」において示した人口の将来推計を展望し、平成27年度（2015年度）を初年度とする今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をとりまとめたものである。

4 嬉野市における「まち・ひと・しごと創生」

嬉野市における「まち・ひと・しごと創生」を進めるにあたっては、下記の4つの柱を基本目標と定め、この柱に沿って具体的な施策に取り組んでいく。

- ◎ 嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる
- ◎ 嬉野市への“ひと”の流れをつくる
- ◎ 嬉野市で妊娠・出産・子育ての“希望”をかなえる
- ◎ 安全・安心な暮らしを守り、市民と協働の“まち”をつくる

【2】政策の企画・実行にあたっての基本方針

1 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

人口減少の克服と本市の創生を確実に実現していくため、国の「総合戦略」で掲げられている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則に基づき、関連する施策を展開する。

≪「まち・ひと・しごと創生」政策5原則≫

- (1) **自立性** . . . 自立を支援する施策
- (2) **将来性** . . . 夢を持つ前向きな施策
- (3) **地域性** . . . 地域の実情等を踏まえた施策
- (4) **直接性** . . . 直接の支援効果のある施策
- (5) **結果重視** . . . 結果を追求する施策

2 嬉野市総合計画後期基本計画との関係

平成26年3月に策定された「嬉野市総合計画後期基本計画」（計画期間：平成25年度～平成29年度）の方針をベースに、嬉野市総合戦略では、「しごと創生」、「ひと創生」、「まち創生」に関する施策を重点的に展開することで人口減少対策と本市の創生に向け取り組む。

3 取組体制とPDCAの確立

(1) 目標設定

施策の基本目標については、国の示す政策4分野ごとに5年後の2019年度までの実現すべき成果（アウトカム）に係る数値目標を設定する。

また、政策分野ごとに講ずべき施策の基本方向と具体的な施策を盛り込み、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標＝KPI）を設定する。

(2) 取組と検証

総合戦略策定にかかわった「嬉野市総合戦略推進委員会」により、毎年度政策の効果検証・改善を行い、必要に応じ「総合戦略」の見直しを行う。

【3】基本目標、重要業績評価指標（KPI）及び具体的な施策

1 成果（アウトカム）を重視した目標設定

政策の「基本目標」については、本市の人口・経済の中長期展望を示した「嬉野市人口ビジョン」を踏まえ、「総合戦略」の目標年次である平成31年度（2019年度）において、市として実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定する。

2 政策の基本目標

本市の多数の資源や地域性を生かした“しごと”の創出、UJIターン支援、住みやすい環境整備により、“ひと”の定住及び交流を進めていくために、次の「基本目標」により取り組む。

＜基本目標①＞ 嬉野市の特性を生かした魅力ある“しごと”をつくる

【数値目標】

■新規雇用者数 180人（5年間累計）

- 本市の産業別就業者の割合をみると、第三次産業の割合が最も高く、全体の64%程度を占めている。また、第一次産業の割合が10%程度と佐賀県と同様、全国と比較しても高く、第二次産業についても25%程度と全国の23.7%を上回っている。
- さらに、産業分類別の就業人口からみた指標として特化係数に注目した場合、男女ともに「農業」が特に高く、このほか「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」、「複合サービス業」などの産業が全国と比較しても就業者の割合が高いことが特徴的である。
- 本市の特性を生かし、産業分野に対する市民の満足度を高めて、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を生み出すために、観光・農業等の本市の強みである地場産業を育成するとともに企業誘致ビル等を整備し、企業誘致や制度新設による起業支援等の新たな産業振興に取り組む。さらに地域産業の競争力強化に取り組むとともに、地域の活力を取り戻すために若者や女性といった地域産業振興を担う域外からの人財誘致を図っていく必要がある。

(1) 雇用の拡大

- 市内企業の事業拡充等に対する支援により雇用の場を増やします。
- 産学官金との連携により新しい産業を創出します。
- U J I ターン人材と市内企業等とのマッチングを支援し、就業者数の拡大を図ります。
- 女性や障がい者の積極的な雇用促進を図ります。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
マッチング支援を通じて就職した人数	人	—	15

(具体的な施策)

- ・ 企業拡充支援制度のPR及び活用推進
- ・ 大学等との連携により新しい産業を創出
- ・ ホームページの充実、広報誌での紹介、他機関との連携
- ・ 大都市圏でのU J I ターン希望者への相談会開設
- ・ 事業所への女性や障がい者の雇用促進・啓発

(2) 次世代を支える起業支援の推進

- 起業家に対する支援制度を新設します。
- 起業家に対し、優遇措置や空店舗、住居等の情報提供を行い、起業を支援します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
新規起業家数	人	—	15

(具体的な施策)

- ・ 起業家支援制度の新設
- ・ ホームページの充実、広報誌での紹介、他機関との連携
- ・ 大都市圏での相談会開設

(3) 企業誘致の推進

- **企業誘致ビル等を整備し、企業誘致を推進します。**
- 企業誘致に係る支援制度の拡充を図り、若者や女性が就業できる事務系の企業を誘致します。
- 優遇措置等の情報提供を積極的に行い、魅力ある企業の誘致を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
企業誘致による新規雇用者数	人	0	150

（具体的な施策）

- ・ 支援制度の拡充
- ・ 関係機関と連携しての誘致活動
- ・ 企業誘致ビル等の整備

（4）**魅力ある地域商業・観光産業の創造**

- 商店街や旅館をはじめとする観光関連施設、さらには地域まちづくり団体等との協働による多様な取り組みによる地域商業の活性化と、そのために必要な地域商業及び観光産業担い手育成を図ります。
- 地域商業において、各種団体が一体となって取り組む消費喚起のハード及びソフト事業の推進・支援を図ります。
- 空き店舗を商業活性化の資産と捉えた空き店舗活用の取り組みへの推進・支援を図ります。
- 大消費圏の百貨店やスーパー等で市内特産品等と取り扱ってもらえるよう、認知度・ブランド力向上と更なる販路開拓・拡大の推進・支援を図ります。
- 消費者に選ばれる魅力的な商品や特産品及びサービスの開発・販売の推進・支援を図ります。
- 九州新幹線西九州ルート開業に伴う新幹線を活かしたまちづくりを目指し、新幹線駅からの人の流れを拡大させるような地域商業活性化の推進・支援を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
観光消費額	百万円	13,355	15,359
商店街の空き店舗率	%	19.7	13.5
「商業振興の状況」市民満足度	%	5.3	20.0

（具体的な施策）

- ・ 市内特産品等の認知度及びブランド力の向上
- ・ 商店街等活性化・交流拠点づくり（魅力ある商業空間づくりやネットワーク構築）
- ・ 地域住民と観光客とが集う賑わいの場の創造
- ・ 地域における「地域商業・観光産業担い手」育成支援
- ・ 大消費圏における特産品等プロモーション
- ・ 空き店舗活用による新規開業及びチャレンジショップ開設等事業者支援
- ・ 新商品・新サービスの事業化及びその開発や販路拡大支援
- ・ EC（ネット通販）やICTを活用した販売促進の支援
- ・ 観光、商工、地域等の各分野が連携・融合した多様な視点からの情報発信

- ・ 商業関連施設の多言語表記推進
- ・ Wi-Fi整備等通信環境整備推進
- ・ 免税店開設支援

(5) うれしの茶の販路・需要開拓

- 嬉野市の地域創成に資するうれしの茶の輸出実現に向けて市内の生産者、流通業者の組合、企業など関係者とともに国内外の調査を行い、うれしの茶の更なる販路・需要開拓に向け取り組みます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
商談成立件数	件	—	6
西九州茶連における嬉野市生産者の販売高	千円	823,667	1,148,425
新たな接点の売り場への「うれしの茶」出荷量	トン	—	5.6

(具体的な施策)

- ・ ジェトロ佐賀等関係機関と連携した海外販路開拓
- ・ 高品質化機械、省力化機械、荒茶加工用機械の整備等による経営規模の拡大、低コスト化の推進
- ・ 基盤整備推進事業や茶園農道整備事業による生産効率向上の推進
- ・ さが茶業所得向上対策事業やうれしの茶優良品種導入事業による高品質茶生産拡大の推進
- ・ 「うれしの茶」の新付加価値化による需要開拓
- ・ 「うれしの茶交流館」建設による更なるうれしの茶のブランド力向上

(6) 活力ある担い手の育成と農業後継者の確保

- 既設営農組合の法人化と新たな営農組織の組織化推進及び農業後継者の確保を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
任意営農組合の法人化数	組合	1	10
営農組合の未組織地区での組織設置数	組織	0	1
青年就農者の確保	人	17	32

(具体的な施策)

- ・ 地域の農地・農業を守る“地域農業の担い手”として営農組合の法人化の推進
- ・ 青年就農給付金等を活用した農業後継者の確保

(7) “うれしのブランド” 野菜の選定及び推進

- 米、麦、大豆及び茶以外での農産物作付の推進を図ることにより、農産物の農閑期における収入確保や農地の有効活用を進め、遊休農地化や耕作放棄地防止を図ります。
- 重労働にならない作目を選定し、女性の就農及び高齢者による農作業が可能となるよう取り組みを進めます。
- “うれしのブランド”として推進する農作物として、「ブロッコリー」「ミニキャロット」「キャベツ」の3作目を推進作目として取り組みを進めます。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
“うれしのブランド” 野菜の作目数	種類	0	3

(具体的な施策)

- ・ 農業団体と連携し、女性及び高齢者による農作業でも作付けでき、且つ、収益性の高い作目の選定及び推奨

(8) 農業の新たな付加価値の創造

- 市内の酒造所と連携しながら実需者からの需要が高い酒造用米の作付面積の増加を図ります。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
酒造用米の作付面積	ha	117	150

(具体的な施策)

- ・ 実需者からの需要が高く、主食用米より高収益の酒造用米の作付面積の増加
- ・ 酒造用米作付けに際して、農業者等が取り組みやすい環境づくり及び支援

(9) 嬉野産農産物のPR及び販路拡大への支援

- 観光PRと連携して、市内の農産物直売所や6次産業に取り組む業者による九州内大型商業施設での販売促進活動の充実を図ります。
- 農産物直売所でのみ販売している商品を市外及び県外にPRし、販売量を増やしていくことで、直売所へ農産品を持ち込む農家（主に女性）の農業収入の向上を図ります。

- 既に6次産業化に取り組んでいる事業者や新規事業者に対し、本市農産品への周知の機会を増やすため支援します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
大型商業施設での販売促進活動の支援	箇所/年	1	10

（具体的な施策）

- ・ 販売促進活動が可能な九州内の各種施設・イベントの情報提供
- ・ 販売促進活動に対応する事業者への支援

(10) 6次産業化・新たな流通対策への支援

- 農産物を加工し付加価値の高い製品を生み出すことで農業所得の向上及び確保に繋がるよう支援します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
6次産業化に取り組む農業者数	者	5	10

（具体的な施策）

- ・ 6次産業化推進のための各種研修会やセミナーの案内
- ・ 国、県並びに関係団体と連携して助成制度活用等の農業者への情報提供

(11) 林産物の利用促進

- 良質材の生産を目標に、質的、量的に安定した生産体制を整備し、多良岳材としての出荷体制を整備します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
市内産木材の搬出量	m ³	1,200	1,440

（具体的な施策）

- ・ 主伐、搬出間伐の促進
- ・ 民間住宅や公共的施設等の木造化に対する支援

＜基本目標②＞ 嬉野市への“ひと”の流れをつくる

【数値目標】

■人口の社会増減数（転入－転出）	2019年：▲85人（2014年：▲135人）
■交流人口（観光客数）	300千人（5年間累計）

- 本市の近年の人口動態では、転出が転入を上回り社会動態は「社会減」となっている。2014年の転出入の状況を見ると、転出先では「福岡県」や近隣市町村以外の「その他の佐賀県」、近隣市町村では「武雄市」となっており、武雄市以外の近隣市町村も含めると転出超過数に占めるこれらの割合は91.5%と比較的近距离での転出となっている。
- 本市への転入増加を図る取り組みとして、災害の少なさや豊かな自然環境、福岡・佐賀・長崎へのアクセスの良さ等の恵まれた住環境を広くPRするとともに、移住・定住支援策を充実し、本市出身者の定住継続（転出抑制）やUターン、市外出身者の新規移住を促進する。さらには、幼少期からのふるさと教育の充実により、ふるさとに愛着と誇りをもつ人材を育成し、将来的な定住につなげる必要がある。
- 県内有数の観光地である本市を訪れ、本市の“ファン”となってくれる人（交流人口）を増やすため、観光業等のさらなる振興にも取り組む。

（1）観光客の誘致促進

- 「選ばれる・愛される観光地 嬉野」を目指し、先人から受け継いだ観光資源の磨き上げや新しい「嬉野」の魅力創出と、そのために必要な観光産業担い手育成を図ります。
- 嬉野市の認知度を高め、さらなる誘客に繋げるために、各国・地域のニーズに応じた観光プロモーション等を実施します。
- 観光客及び地域住民へ、より充実した観光情報等を提供するために、民間等との協働による観光等情報の一元化等に取り組み、観光情報等の多様な嬉野の情報発信に努めます。
- 観光客増を目指し、地域住民にも喜んでもらえるイベントやまつり等の充実に取り組みます。
- 外国人をはじめとする観光客の利便性向上のために、観光分野における多言語対応やWi-Fi環境の整備、観光施設のUD化等、おもてなし環境の充実を図ります。
- 九州新幹線西九州ルート開業に伴う新幹線を活かしたまちづくりを目指し、新幹線駅からの人の流れを拡大させるような観光誘客の促進を図ります。
- 国際会議等のコンベンション誘致やスポーツを通じた交流人口の拡大を図ります。
- 歴史的な街並みなど本市の文化、歴史、自然などの特徴的な資源を活かした魅力的な観光地づくりを進めます。
- 広域的な観光ルートの形成を目指して近隣市町と連携した「日本版DMO」の創設に向けて検討を始めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
観光客数	千人	1,957	2,255
外国人観光客数	百人	21.4	60.0
宿泊数	千人	515	593
「観光振興の状況」市民満足度	%	17.1	30.0

（具体的な施策）

- ・ 「温泉」、「食」、「自然」など新たな観光資源発掘及び既存観光資源の磨き上げ
- ・ **嬉野温泉の源泉の保全**
- ・ 商店街や周辺地域等との連携による魅力創出
- ・ 首都圏、関西地方及び九州域内における観光等プロモーション
- ・ 主にアジア圏をターゲットとした広域連携等による海外プロモーション
- ・ 各種コンテンツとのタイアップによるプロモーション
- ・ 観光等情報一元化（観光情報プラットフォーム構築）整備推進
- ・ 観光、商工、地域等の各分野が連携・融合した多様な視点からの情報発信
- ・ 誘客イベントやまつりの実施・支援
- ・ 観光関連施設の多言語表記推進
- ・ Wi-Fi整備等通信環境整備推進
- ・ 免税店開設支援
- ・ **コンベンション誘致の推進**
- ・ **「スポーツ観光」の推進**
- ・ 歴史的な建造物を活かした観光客誘致の推進
- ・ 「日本版DMO」の創設に向けた取り組みの検討

（2）国際交流活動の推進

- 海外との交流を深めることにより、市民の豊かな国際感覚の醸成とグローバル人材の育成を推進します。
- 嬉野市と交流相手都市との相互地域文化等交流活動により、観光及び商工を中心とした交流人口の増加を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
「国内外との交流活動の状況」市民満足度	%	10.8	20.0

（具体的な施策）

- ・ 高校生による学校間の文化・スポーツ等交流の推進
- ・ 相互の観光資源や特産品をはじめとした地域産業及び文化等を通じた交流の推進

- ・ 各種の地域国際交流団体への支援

(3) 移住支援及び定住支援

- 移住・定住希望者に向けた嬉野市の魅力発信と交流の促進を図ります。
- 移住のための相談・支援体制の充実を図ります。
- 優遇措置や空き家等に関する情報提供を積極的に行い、移住・定住を促進します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
移住者数	人	3	40
定住者数	人	150	750

(具体的な施策)

- ・ シティプロモーション動画等の制作
- ・ 支援制度のPR及び活用推進
- ・ ホームページの充実、広報誌での紹介、他機関との連携
- ・ 大都市圏での相談会開設
- ・ 空き家バンクへの登録推進

(4) 公営住宅の整備

- 良好な住環境の形成は、定住促進とともに、まちの環境・景観の保全にも資することになることから、公営住宅の計画的な整備改善を進めていきます。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
公営住宅の更新	戸	—	20

(具体的な施策)

- ・ 老朽化した公営住宅の改築・更新の実施

(5) 魅力ある文化芸術の推進

- 文化イベント等を通し新たな嬉野の魅力を創造・発信し、交流人口および定住人口の増加を図ります。
- 文化活動の拠点となる組織の充実により、魅力ある文化・芸術と触れあえる特色あるまちづくりを目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
文化イベント開催による市外からの参加人数	人	—	1,800

(具体的な施策)

- ・ 県内外から多くの来場者を呼べる演奏会、舞台芸術、展覧会等のイベントの誘致および開催
- ・ プロを目指す若手芸術家の育成支援のための新たな活動拠点及び交流の場の整備による新たな市の魅力発信
- ・ 誰もが気軽に文化芸術を鑑賞でき、人にやさしく文化芸術に触れ合うまちづくりの推進
- ・ 文化芸術の分野において国内外で活躍している佐賀ゆかりの人物に光をあてたイベントおよびワークショップ等の開催
- ・ 誰もが、いつでも嬉野で開催する文化芸術に関する情報が収集出来るように市内外および県外への情報発信

(6) 人と地域が元気になるスポーツの推進

- スポーツを通じて、観光・茶業など市内各種産業のそれぞれが持つ力を融合させ、嬉野市へ訪れる人への受入体制の強化を図り、嬉野市の情報発信と魅力向上、地域の活性化を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
スポーツ合宿参加者数	人	5,000	10,000
スポーツボランティア登録者数	人	0	500

(具体的な施策)

- ・ 魅力あるスポーツイベントや東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツキャンプなどの誘致のためのハード・ソフト両面での取組
- ・ 市内外で行われる集客力のあるスポーツイベントを活用した「スポーツ都市うれしの」「観光地嬉野温泉」の魅力発信
- ・ 市民全員でスポーツを支えるスポーツボランティア制度の創設
- ・ 嬉野らしさのある特典を活かしたスポーツポイント制度の導入
- ・ 温泉観光地である強みを生かした力強いスポーツツーリズムの推進を目指す官民が連携したスポーツコミッション組織の設立・育成

(7) ひとにやさしいまちづくりの推進

- 嬉野市民や、嬉野市を訪れるすべてのひとが、安全・安心に社会生活や観光を楽しむことができる日本一ひとにやさしいまちを目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
外国人や障がい者にも対応できるユニバーサルデザイン（UD）ガイド登録者数	人	0	20
宿泊施設を利用する障がい者、高齢者、外国人向け避難訓練の実施	回	0	100
パラリンピックの正式種目「ボッチャ」競技人口	人	0	1,400

（具体的な施策）

- ・ すべてのひとがまち歩きを楽しむことができるようハード・ソフト両面にわたる取り組みの充実
- ・ バリアフリーな避難体制を確立するための施策の推進
- ・ 市民や企業、団体など市全体で、すべての観光客を受け入れて満足していただくためのユニバーサルデザイン（UD）に対する意識の向上及び普及啓発の促進
- ・ すべてのひとがハンディなく、一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの普及の促進
- ・ ユニバーサルデザイン（UD）やバリア情報などの情報発信の充実
- ・ 建築物、公共交通、道路、公園など、まちづくり全体の面的なユニバーサルデザイン（UD）化の促進及びバリア状況調査の更なる充実

（8）新幹線を生かしたまちづくりの推進

- 新幹線の果たす役割は非常に大きいものがあり、西九州地域を代表する嬉野市にとって、新幹線効果を最大限に発揮できるような魅力的なまちづくりに取り組んでいきます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
新幹線嬉野温泉駅前施設整備率	%	0	40

（具体的な施策）

- ・ 土地区画整理事業を用いた整備の促進
- ・ 「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の提言を受け、駅周辺施設整備の促進
- ・ 新幹線嬉野温泉駅開業に向け広域的誘客促進の取組の実施
- ・ 都市再生整備計画事業等を用いた魅力ある駅前の創出

（9）ふるさと教育の推進

- 嬉野市ならではの自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった教育資源を活用し、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさとに愛着と誇りを持ち、将来は嬉野市に戻ってきたいと思えるような心を育てる教育を進めていきます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
市内在住高校生への卒業後に関する質問で「嬉野市に住む」又は「嬉野市から出ていくが将来は嬉野市に戻ってきたい」と回答する生徒の割合	%	30	40

（具体的な施策）

- ・ 「嬉野学」（郷土学習）による心の教育の推進。「嬉野学指導資料集」の活用による郷土を愛する心の育成等のための取組の充実
- ・ 学校、家庭、地域のサポートによる地域活動への積極的な参加

＜基本目標③＞ 嬉野市で結婚・出産・子育ての“希望”をかなえる

【数値目標】

- 出生数 1,100人（5年間累計） 参考：206人（2013年）
- 合計特殊出生率 2019年：1.70人 （2012年：1.57人）

- 本市における結婚事情をみると、未婚化・晩婚化が進行している。2010年の生涯未婚率では男性が21.0%で、女性は9.4%となっている。特に男性は国・県よりも高い状況にあり5人に1人は生涯未婚という状態にある。
- 2008～2012年の合計特殊出生率についても本市は1.57人と全国（1.38人）より高いが佐賀県（1.61人）よりはやや低い水準にあり、県内20市町において13番目となっている。
- 市民の結婚・出産・子育てに対する希望が叶えられる環境づくりとして、若い世代が安心して働ける多様な雇用の場を創出し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進や結婚を希望する人を応援する施策に合わせ、子育て支援制度、地域での子育てサポート体制等子育てしやすい環境を更に充実し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を行っていくことで、出生率を上げ、出生数増につなげていく必要がある。

（1）結婚支援の充実

- 全国的に少子化問題が深刻化して社会問題になっており、その問題解消の糸口として結婚問題に取り組み、男女の出会いの機会を提供するための結婚支援事業を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
出会いの場におけるカップル成立数	組	12	80
結婚支援事業登録者数	人	78	150

（具体的な施策）

- ・ 独身者の魅力向上を図りつつ、男女の出会いの場の創出
- ・ 結婚支援事業の情報発信を強化し、独身者の結婚に対する機運の醸成
- ・ 各種結婚支援事業の推進
- ・ 結婚支援相談員の配置
- ・ 男性向けコミュニケーション能力アップ講座の開催

(2) 妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

- 地域における医療情報の提供と、市民が安心できる医療の確保を目指します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
不妊治療費助成件数 不育症治療費助成件数	件	27 0	30 3
訪問指導・健康相談（妊産婦、乳幼児、学童）	人	4,605	4,900

（具体的な施策）

- ・ 不妊治療（体外受精・顕微授精）・不育症治療費助成制度の実施
- ・ 南部地区小児時間外診療事業による毎日の夜間（19時から21時）小児救急医療の提供
- ・ 妊娠出産期から、乳幼児・学童期の子育てに至るまでの相談支援の充実

(3) 家庭や地域における食育の推進

- 食に対する関心と理解を深めるとともに、健全な食生活に関する普及啓発に取り組みます。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
食生活改善普及講習会の参加者	人	604	800

（具体的な施策）

- ・ 世代間を通じた料理教室などの機会の提供や食に対する関心と意識の醸成
- ・ 市報やホームページによる簡単にできる朝食レシピや野菜料理の紹介
- ・ 学校、保育所・幼稚園、家庭、地域における食育の推進
- ・ 生活習慣病の予防及び健康増進のための食生活改善普及講習会等への参加の推進

(4) 安心して子どもを育てられる環境の確保

- 子どもを持つ親が不安なく子育てと仕事を両立でき、子どもが健やかに伸び伸びと成長し、子どもたちの歓声と笑顔があふれる子ども子育て先進地・嬉野の実現を目指します。
- 家庭と職場が両立できるように男女がともに協力した家庭生活（ワークライフバランス）の推進を図るとともに職場での働きやすい環境整備を進めるための啓発事業を強化します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H25年度	H31年度
延長保育事業	人	46	76

放課後児童健全育成事業	低学年	人	326	314
	高学年	人	8	87
地域子育て支援拠点事業		人回	4,046	4,000
一時預かり事業	幼稚園の一時預かり事業	人日	20,440	11,865
	一時預かり	人日	1,760	1,566
病児・病後児保育事業		人日	9	151
ファミリー・サポート・センター事業 (就学児のみ)		人日	177	200
こどもセンター		箇所	—	1
「男は仕事、女は家庭」という考えに 反対する市民の割合		%	53.7	70.0以上

(具体的な施策)

- ・ 地域の実情に応じた保育を実施し、老朽化した保育所の計画的な整備支援
- ・ 病児・病後児保育、延長保育、一時預かり等、保護者の要望に沿える保育サービスの充実や乳幼児や障がい児の保育の場の確保
- ・ 小学6年生まで受け入れている放課後児童クラブの実施場所や支援員の確保
- ・ 地域子育て支援センターの充実、相談や交流、情報提供による育児不安や孤立化の緩和
- ・ ファミリー・サポート・センターの充実を図るため、養成講座や研修による会員増、サービス利用の促進
- ・ ひとり親家庭の自立に向けた意欲を高め、安心して子育てと就業を両立できるための支援
- ・ 児童虐待の予防と早期発見、早期対応に努めるため、支援体制の強化
- ・ 出産から子育て、教育に至るまでの様々な相談に対応する「こどもセンター」の整備
- ・ ワークライフバランスの推進のため県等と連携した啓発セミナー等の実施及びセミナー、講演会等の開催情報の周知強化並びに男女共同参画意識の向上のための情報発信等の強化
- ・ 女性が社会進出するために必要な女性起業支援セミナーの開催による女性の起業・再就職の促進

(5) 確かな学力の育成

- 基本的な学習態度を培うとともに、基礎学力の定着、向上を図るために、児童一人ひとりが意欲をもって主体的に学ぶことができる学習環境を整備します。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
全国学力学習状況調査 対象学年及び教科 小6の国語A・B 算数A・B、理科 ※理科はH26未実施 中3の国語A・B 数学A・B、理科	—	小6は全教科において市の平均は全国平均以上 中3は全教科において市の平均以下	小中学校とも、調査対象の全教科の市の平均点を全国平均以上

（具体的な施策）

- ・ 小学校における「嬉野市子ども学校塾」による学習習慣の定着と、中学校における「放課後等補充学習支援事業」による基礎学力の向上
- ・ 2学期制を生かした時数確保による学力向上、夏季休業中の補充指導の充実
- ・ 夏季休業期間の弾力的な運用による教育活動の充実
- ・ 小学校3年生に国語辞典を支給し、活用させることによる語彙力等の育成
- ・ 新聞を活用した教育活動の工夫改善
- ・ 「学びの習慣づくり」リーフレットや「学習規律・学習習慣作り（指導の手引）」の活用等による小中の学びの連続性の確立
- ・ 小中連携・一貫教育（「ろく・さんプラン」3ステップ）の充実
- ・ 吉田小・中学校を指定校とし、よりよい小中一貫教育の在り方に関する研究の推進
- ・ ICT利活用による授業の工夫改善
- ・ 全国学力・学習状況調査等の分析に基づく課題把握とその対策の充実

（6）豊かな心を育む教育の推進

- 不登校や不登校傾向の児童生徒への支援を行い、充実した学校生活を送れるようにします。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
不登校出現率	%	小学校 0.07 中学校 1.91	小中学校とも全国平均の2分の1以下
アンケートにおいて規範意識や思いやりに関する質問への回答	%	未実施	肯定的な回答が80以上

（具体的な施策）

- ・ 自然体験、ボランティア活動等体験活動の充実（ユニバーサルデザイン学習）
- ・ 教育活動全体をととした道徳教育、人権教育の充実
- ・ 教育相談及び不登校対応の充実（復帰教室及び適応指導教室、スクールソーシャルワーカー等の活用）
- ・ 児童生徒用、保護者・地域用いじめ対策パンフレットの活用によるいじめ対応等の充実
- ・ 「こころの相談ネット」の開設によるいじめの早期対応等の充実

(7) 社会の変化に対応した教育の推進

- 地域とともにある学校づくりを目指し、コミュニティ・スクールによる地域との連携を図ります。児童生徒を中心に置き、学校、保護者、地域住民が一体となって取り組む施策を展開し、教育力の向上を目指します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
電子黒板	—	全普通教室に配備	特別教室を含む全教室へ配置
特別支援教育支援員の配置	人	13	必要とする全ての学校へ配置
「学校教育環境」市民満足度	%	36.1	41.1

(具体的な施策)

- ・ 校長のマネジメント力強化（校長先生の知恵袋事業）
- ・ 小学校6年生から中学校3年生までの4年間で使用する『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』（改訂版）の活用による自己解決力、自己防衛力、規範意識の育成
- ・ I C T利活用教育の推進
- ・ 早期からの教育相談等による就学支援の充実
- ・ 特別支援教育の推進（特別支援教育支援員の配置）
- ・ 学校運営協議会を核とする地域ぐるみの学校づくりの推進
- ・ 地域コミュニティ組織を活用しての学校運営の推進
- ・ 地域教育力を活用した学校支援の充実
- ・ 学校と地域との間の「子育て」をめぐる連携強化
- ・ 孫守り隊、パトロールボランティア等との連携継続による安心・安全確保の推進
- ・ 小学校英語活動の推進

<基本目標④> 安全・安心な暮らしを守り、市民と協働の“まち”をつくる

【数値目標】

- 恒常的に自主防災訓練、防災会議等を開催する地域コミュニティ数 2019年度：7地区（全7地区）
- 人間ドック事業受診者数 2019年度：100人

- 地域とのつながりが薄れている近年、本市では、小学校区を基本とした新しい住民組織である「地域コミュニティ」組織が確立されている。高齢化による独居老人世帯や高齢者世帯の増加により地域での防犯・防災対策などが課題となる中、地域でできることは地域で（自助）、地域だけでできないことは地域と行政の協働で（共助）、地域でできないことは行政で（公助）の「補完性の原理」に基づき市民の心が通う地域づくりを行っていく必要がある。
- 市民が“ふるさと”での生活の素晴らしさを実感し、安心して快適に暮らしていくためにも、道路などの交通ネットワーク網の整備や公共交通機関の利用のしやすさ、文化・スポーツの振興や医療福祉、消防・防災等の生活基盤の充実に取り組む。
- 地域コミュニティ活動の活性化やボランティア等の地域活動者の交流促進等により、地域や家族の結びつきを大切にして、人と人とのつながりのあるまちづくりを推進する。

（1）コミュニティ活動の促進

- 市内7地区の地域コミュニティは、これからもより安全・安心に暮らすことができ、住んで良かった、これからも住み続けたいと実感できるようそれぞれがテーマを持った地域づくりを進めていきます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
「コミュニティ活動の状況」に対する市民満足度の向上	%	28.5	40.0
恒常的に自主防災訓練、防災会議等を開催している地域コミュニティ数	地区	3	7

（具体的な施策）

- ・ 市内7地区の地域コミュニティの自主的・積極的な各種コミュニティ活動の支援
- ・ 地域コミュニティの活動状況等を嬉野市ホームページや市報及びコミュニティ広報紙の地区内全戸配布などを通じての情報発信の充実

- ・ 各地区地域コミュニティの自主防災活動の促進を支援
- ・ NPOの設立・運営支援や各種CSO・ボランティアの交流や情報提供の促進
- ・ 地域住民等による主体的な景観づくり活動の推進

(2) 災害に強いまちづくり

- 複雑多様化する災害に対応するために、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全の確保に努めます。
- 防災に関する地元説明会を実施し、災害に対する危機意識を高めてもらうことを目的とします。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
消防団員数 (うち女性消防団員数)	人	1,045 (38)	1,050 (40)
防災に関する地元説明会の開催	行政区	25	88

(具体的な施策)

- ・ 消防団のPR、消防団への理解促進、消防団員優遇措置等による消防団員確保対策事業の実施
- ・ 土砂災害防止法に基づき、住民へ危険性の認識と防災、避難に関する地元説明会の実施
- ・ 土砂災害防止法対象外の地区でも、行政嘱託員を通じ危険箇所マップを用いた危険性や避難等防災についての説明会を実施
- ・ 女性消防団員による広報活動への支援

(3) 空き家対策の推進

- 市内にある空き家のうち、特定空き家認定率を高めることにより、平常時から市民の安心な生活へつなげます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
該当物件の特定空き家指定率	%	未調査	100

(具体的な施策)

- ・ 市内空き家の全件調査を行い、特定空き家対象物件の把握
- ・ 特定空き家に該当する物件の所有者に、撤去等の指導・勧告・命令

(4) 地域防犯体制の充実

- 深夜に発生する性犯罪等凶悪犯罪を抑止し、児童・子供・女性等を犯罪から守り、市民の安全な生活環境の推進に努めます。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
防犯灯のLED化	本	335/3,000	1,988/3,000

(具体的な施策)

- ・ 市内に設置された防犯灯等の実態把握
- ・ 毎年300本程度の防犯灯等の設置など計画的なLED化の促進
- ・ 防犯灯等の所有者に対し、増設、取り換え等の際におけるLED化への切り替えについて協力依頼

(5) 健康長寿のまちづくり

- 市民すべての健康意識の向上を図るとともに、特定健康診査など各種健康診査及び健康教育、相談等の利用向上を推進します。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
特定健康診査受診率	%	39.9	45.0
特定保健指導受診率	%	34.4	40.0
人間ドック事業受診者数	人	85	100
脳ドック事業受診者数 (国保被保険者含む)	人	201	210
がん検診			
胃がん	%	12.2	15.0
子宮がん	%	30.7	35.0
乳がん	%	33.0	35.0
大腸がん	%	24.4	30.0
肺がん	%	22.3	25.0
前立腺がん	%	29.1	35.0

(具体的な施策)

- ・ 第2次嬉野市健康総合計画（H25年度～29年度）の推進及び中間見直し

- ・ 地域での健康意識の向上による特定健康診査・特定保健指導実施率向上の推進
- ・ 生活習慣病やその他の疾病の早期発見・予防対策として人間ドック・脳ドック検診の実施
- ・ がん検診受診促進のための普及啓発と受診率の向上

(6) 介護予防事業の推進

- 健康や運動について学び、実践することで、要介護状態になることを防ぐとともに、市民一人一人が自分の健康は自分で守ることができるようになることを目指します。
- 健常時から高齢の要介護時まで移転することなく継続して暮らせる「日本版CCRC」への取り組みを検討していきます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
介護予防事業（一次）の参加者数（延べ）	人	4,076	5,000
介護予防事業（二次）の参加者数（延べ）	人	5,494	6,000

（具体的な施策）

- ・ 期間の延長を含めた介護予防教室（運動教室・健康教室）の開催
- ・ 「日本版CCRC」の検討

(7) 認知症サポーターの養成

- 地域住民の認知症に対する理解を深め、認知症の方が住み慣れた地域でできる限り住み続けることのできる社会づくりを目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
認知症サポーター数	人	1,012	1,500

（具体的な施策）

- ・ 地域や職場、学校など小学生から高齢者までの様々な年齢層での認知症サポーター養成講座の実施

(8) 生涯学習の推進

- 生涯学習の環境づくりの充実により、一人ひとりが生涯にわたりいつでも自由に学習機会を選択し、自立した豊かで生きがいのある生活を送ることができるまちづくりを目指します。

- 生涯学習講座の学習機会や情報の提供を充実させ、学習支援体制の確立を図ります。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
生涯学習講座の開催	回	161	210

（具体的な施策）

- ・ 講座の開催を通じ、生涯にわたり学ぶ気持ちの育成と生きがいつくりへの支援
- ・ 生涯学習情報の提供とサークル活動の支援体制の確立
- ・ 学習活動をサポートする指導者、ボランティアの育成、確保
- ・ 生涯学習活動サークルによって自主的な運営を可能とする環境づくりや自ら学び続ける気持ちの支援
- ・ 高齢者教室（若返り大学、ことぶき大学、出前講座）の充実
- ・ 放課後子ども教室の充実

（9）地域における身近な移動手段の確保

- 嬉野市唯一の公共交通機関である路線バスについては、少子化や高齢者の免許保有率の増加に伴い、著しい利用者増加は見込めないが、今後とも地域の実情（移動の実態等）に合わせた最適な移動手段確保を検討します。
- 既存の必要な地域公共交通については、自家用車など他の交通手段を持たない高齢者や障がい者、また児童・生徒の通学手段の確保の為、地域の実情に応じた適切なかたちで維持確保します。
- 持続可能な地域の移動手段確保の為、新制度等について積極的に研究していきます。

【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
公共交通利用者数	人	372,000	372,000

（具体的な施策）

- ・ 既存の路線バス、乗合タクシーの存続
- ・ 新幹線嬉野温泉駅開業や嬉野医療センターの駅周辺への移転を見据え、適宜公共交通路線見直しを行うとともに、広域基幹バス路線の充実
- ・ バス事業者の民間施設である嬉野温泉バスセンターへの乗合タクシー等の乗り入れ調整及び交通結節点として嬉野温泉バスセンターの利便性向上
- ・ 嬉野インターチェンジ、嬉野温泉バスセンター、嬉野市街地、新幹線嬉野温泉駅を結ぶ循環バスの検討
- ・ バス利用者の増加を図る為、嬉野温泉バスセンターについて、市民が日常的に利用したいと感じるバスターミナル機能充実の検討

(10) **嬉野温泉（仮称）駅と市街地を結ぶ道路及び公共交通ネットワークの強化**

- 新幹線**嬉野温泉（仮称）駅**は、西九州地域の広域的玄関口として非常に期待が大きく、佐賀県南西部地区及び長崎県北部地域との交流・連携の強化が必要であり、さらに**嬉野温泉（仮称）駅**と市街地とをつなぐ道路及び公共交通ネットワークについても強化を図っていきます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	現状	目標
		H26年度	H31年度
都市計画道路整備済の割合	%	71	77
市道の改良路線数	路線	12	20

（具体的な施策）

- ・ 誰もが安全で快適に利用できる魅力ある街路の整備
- ・ 土地区画整理事業を用いた整備の促進
- ・ 安全で安心して利用できる市道の改良

